



サポート通信は、東海市ファミリーサポートセンター 提供・両方会員向け情報誌です。

日頃からファミサポの運営へのご理解ご協力ありがとうございます。

社会の変化に伴い様々に変化するファミサポのニーズをご理解いただき、細やかにご対応していただけることに、本当に感謝しかありません。今後もより良い活動ができるよう、事務局一同サポートしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

★お知らせ★

※5年に1度の救命法の受講が義務付けられています。他の講義の学び直しも大歓迎です！

今年度の救命講習会日程（水曜日）

10月		2月	
27	28	24	25
火	水	水	木
9時～12時			

不適切行為の確認について

前号でお知らせしましたが、国の要綱が改正されました。これを受けて、現在、新規登録の両方・提供会員に対し口頭で行っていた不適切行為の有無の確認を、今後は、国の様式を基に作成した宣誓書により確認させていただきます。次回サポート通信にて詳細をお伝えしますので、ご協力をお願いします。

★熱中症に気をつけよう！★

これから夏本番！酷暑日（40℃以上）という表現が制定されました。最近、連日35℃を超える猛暑日も増えてきました。熱中症で搬送されるというニュースもよく聞かれます。

ファミサポ活動の際も十分注意が必要になります。

湿度が高い日は体の熱が逃げにくく、子どもは大人よりも体温調節が未熟なため、短時間でも症状が進むことがあるので、要注意です。

★まずは予防！★

- ・送迎前に「水分持参」を確認
依頼会員への声掛けで事故が1つ減ります。
- ・帽子・日よけの徹底
（徒歩・自転車送迎は直射日光を浴びやすい）
- ・ベビーカーは日陰側を歩く
（ほんの数分でも体感温度が変わる）
- ・外遊びは短時間・こまめな休憩
（10分遊んで2分休むが理想）
- ・車内はエアコンが効いてから乗せる
（短時間でも体温が上がりやすいので注意）

★気付く力が 子どもを守る力に！★

熱中症は気をつけていれば防げる事故の代表例です。

提供会員の「あれ、いつもと違う？」という小さな気づきが、子どもたちの安全を守る大きな力となります。

女性労働協会保健だより引用

★子ども特有のサインに気づくには・・・

大人と違い、子どもは自分で「暑い」「気持ち悪い」が言えないことがあります。こんな変化があれば早めに休憩を！

★熱中症のサイン★

- ・顔が赤いのに汗が少ない
- ・「ボー」としている
- ・返事が遅い
- ・いつもより機嫌が悪い
- ・水分を飲みたがらない
- ・体が熱い

など

★会員ご自身もしっかり熱中症対策をしてください！

東海市ファミリーサポートセンター

〒477-0031

東海市大田町後田1158番地（ソラト太田川3階）

TEL・FAX 0562-85-6556



第1部「時代と共に変化する子育ての環境や方法に対応するための支援者の関わり方」

講師 臨床心理士 福島歩先生

臨床心理士の福島先生に子育て環境がどう変化してきているか？それに伴い、どう関わっていくといいのか教えていただきました。

環境の変化



- ① お父さんの育児参加・・・・・・ 育休取得率前年度から10%増で40.5%
- ② 低年齢からの保育園入園・・・・ 0～2歳児の保育園入園、満3歳での幼稚園入園
- ③ 育児に欠かせないスマホ・・・・ デジタル機器
 - ・身近な人へ聞かず、ネットで調べ実践→断片的なので余計に不安が強くなる。
 - ・泣きぐずりの子へ、スマホを見せ紛らわせようとする親→愛着が形成されない、情緒不安。本来は、泣いたら抱っこ、共感されることで愛着が形成される。
- ④ 学校・・・・・・・・・・・・・・・・ 働き方改革により、行事等の縮小、タブレット、英語など新たな学習の導入、体罰禁止、ジェンダーレスなど、社会の風潮を取り入れた対応、多職種での対応「チーム学校」



子育ての方法の変化

① 体罰によらない子育て

令和2年児童福祉法改正法「親権者等による体罰の禁止」体罰によらない子育てが推奨されている。

「叱る」をどうとらえるか？

※「叱る」は、相手を変えようとする行為（罰的な要素を含む）
罰を与えようとする人の前だけやらなくなる、効果がなくなり叱り方がどんどん強くなるなど、副作用、限界がある。

- ★やってはいけないと禁止するより、どうしたらよいか具体的に子どもが分かる方法で教える。
- ★根気よく言い続ける・待つ。
- ★認められることが増えれば、自然と困り行動は減っていく。

※厚生労働省作成リーフレット「体罰等によらない子育てを広げよう」に具体的に示されているので参考にしてみてください。

② こどもを理解する

- ・多様性を考え理解すること
- ・感覚の違いを感じる
- ・感覚特性
- ・認知の違いを感じる
- ・情報処理の仕方は人それぞれ
- ・その子に合ったかわりを探す

★個々の感覚の違いを楽しんで受け入れることが支援者として負担を減らし活動が楽しくなるヒントかもしれないですね！



第2部 講師多肉植物愛好家 蟹江俊哉さん
(助手 唐澤さん 蟹江俊哉さんのお父様)
「植物に触れて心穏やかに」

様々な色・形の多肉植物を用意してくださっていました。大小合わせて2つの鉢に寄せ植えをしていきます。参加者はそれぞれのイメージで寄せ植えを楽しんでいましたが、はじめのうちは、皆さん会話も無いほど真剣でした。余裕が出てくると、同じテーブル同士で会話が盛り上がり、会員同士の交流もはじまりました。ファミサポの活動をする中での出来事などを話し、援助する方ならではの楽しみを共感していました。素敵な作品ができました！

「とても楽しかった！」「来年もやりたい！」などの声が聞かれ、現在の鉢植えの様子の報告も伝わってきています！

